



日本の森林をどう守り、利用するか

NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長 泊 みゆき

2015. 7. 3

東海豪雨と矢作川森の健康診断

- 2000年東海豪雨、上流域の間伐不足が原因か？
- 上流域の人工林の間伐状況についてのデータがない
- 矢作川森の健康診断: 市民による森林調査
- 矢作川全域の5～8割で間伐が必要な過密な状態
↓
- 流域自治体による対策 郡上市、豊田市
- 土佐の森・救援隊の「バイオマス集積基地」のアレンジ版としての木の駅プロジェクト

- 伐採届 再造林 天然更新のチェックをどう強化するか
 - 市町村林務課のマンパワー強化
 - 森林組合など外部への委託 予算づけ
 - 都道府県によるフォロー
- 地域による森林管理体制をどう構築するか
 - 地域の森林利用協議会の設置(予算、マンパワーが必要)
 - 地域のステークホルダーが参加する森林利用計画策定、実施
- 直面する課題
 - 地籍調査
 - 災害防止の間伐・再植林
 - 農地集約化中間支援組織の林地版

木質バイオマス発電の課題

- 再生可能エネルギー電力買取制度 (FIT) 認定 (2015. 3)
 - 未利用 36万kW 700万m³
 - 一般木材132万kW 2600万m³ 計3, 300万m³
 - ◎絶対的に足りない
 - 皆伐
 - 他用途からの転用 製紙用、B材
 - 輸入
 - 破綻？
- 長期見通し 一般木材400万kW 輸入しても無理
- 石炭混焼 発電コスト 13円/kWhを24円で買取り
 - 過大な国民負担 100万kW分で1. 6兆円の事業者利益⁴

搬出費用

- 針葉樹人工林皆伐 7,000円/m³
- 針葉樹人工林間伐 11,000円/m³

(出所:森林総合研究所 久保山裕史氏資料)

● バイオマス発電所の原木買取り価格

4,000円～8,000円/m³程度

山には膨大な資源があるが、価格が合わないので使えない

搬出できるのは一部。間伐材より皆伐材が安い

- ・買取り価格を高くし過ぎると、木材利用がめっちゃくちゃになる
- ・温暖化対策等との費用対効果??
- ・そもそも、温暖化対策なら熱利用すべき

2030年におけるバイオマス発電の導入見込み量

	既導入量 (第4回資料)	導入見通し (第4回資料)	導入見通し (今回)
未利用間伐材等	3万kW	24万kW	24万kW
建設資材廃棄物	33万kW	37万kW	37万kW
一般木材・農作物残さ	10万kW	80万kW	274万kW~400万kW
バイオガス	2万kW	16万kW	16万kW
一般廃棄物等	78万kW	124万kW	124万kW
RPS	127万kW	127万kW	127万kW
合計	252万kW (177億kWh)	408万kW (286億kWh)	602万kW~728万kW (394億kWh~490億kWh)

- 伐採届、森林経営計画、トレーサビリティの実効性をどう確保するか？
- 災害対策として緊急に行うべき間伐、再造林
それらの調査、地籍調査、実施体制
- バランスの取れた林産業の発展
- 地域に森林利用・管理体制を広げる政策を